

書燈

2016年 No. 50



リニューアルオープン特集号

図書館リニューアルオープンに寄せて

附属図書館長

千葉 悦子



本学附属図書館は金谷川キャンパスに統合移転した1981年に建設されました。以来30数年、1994年に北側部分を一部増改築したものの、今回の増改築工事に至るまで、建設時の建物の姿を留めていましたが、図書

の収容や学生の自主的学びの場のスペースの確保が差し迫った課題となり、一昨年の7月から大規模な増改築・改修工事を行い、昨年の7月にリニューアルオープンしました。

附属図書館はどのように変わったのでしょうか。フロア面積は旧図書館の約1.5倍となり1万平米を越す大きな図書館となりました。バリアフリー化をはかり、身障者用のエレベーターや最新式のトイレ設備を導入し、安全な環境も実現しました。拡張したスペースを活かして、多様な学習環境、能動的学習が提供できるようにラーニングコモンズを200席以上設置し、「知の集積」という従来の役割だけでなく、知の交流が生まれる場として機能する図書館となるようにしました。さらに、約90万冊の蔵書が収容しきれない書架の狭隘化を解消するため、24万冊相当の電動集密書架を設置しました。

また、松川資料や地域創造支援センター資料、総合教育研究センター資料等、学内に分散していた資料の集約化をはかるとともに、大学の広報エリアを設置し、市民及び学内の学生・教職員に本学の活動を周知する一翼を担わせました。

館内を概観してみましょう。2頁に示されているように、1階から3階までフロア毎に特色あるゾーニングを行いました。1階のコンセプトは「フリーなディスカッション」や「言葉を交わす教え合い」ができる場です。また、大学生協図書館店で専門書や飲食物を購入し、軽食をとり

ながらくつろげるスペースとして解放している点も特徴です。2階は旧館を約10万冊の開架書架と約200席の閲覧席を備えた従来型の静粛空間とする一方、新館には資料を元に討論しながら学習を進めるスペース、個人ブース、パソコンエリアや視聴覚ブースなど、複数の機能を融合したスペースを構成しました。3階には総合情報処理センターのパソコンサテライトとして「IPCパソコンルーム」を設けるとともに、「個室」「グループ学習室」「セミナー室」など一人もしくは少人数規模から数十人規模で学べる学習室まで用意し、さらに、大型スクリーンやプロジェクタ、ディスプレイといったICT機器の設置など、様々な学生の学習ニーズに応えられるようなスタイルを提供しました。

当初は学生達がどのように利用するか少々不安がありましたが、これまでのアクティブ・ラーニングの経験を蓄積してきた本学であるからこそでしょうか、グループでのディスカッションや数人で語り合う姿、図書やパソコンを駆使して自学自習をする光景がごく自然に当たり前のように見られます。さらに、図書館を本学の教育研究の拠点に据えるべく、館内で学習支援等の活動を行う学生スタッフ（「学びのスタッフ」）を組織しました。今後も教職員や学生とともに図書館機能のさらなるブラッシュアップをはかっていこうと思います。

また、今後は地域の方々にとっても魅力的な大学図書館を目指したいと思います。地域の方々の学習要求は多様化・高度化しています。少子高齢化をはじめとする地域の課題を解決しようとする知の欲求は高まっています。地域の方々の学習活動を生涯にわたって支える「地域の知の拠点」として地域社会と共生する図書館を目指すよう努めたいと思います。

リニュアルでココが変わった!

1 3つのラーニング commons
自分にあったスタイルで学習!

2 個人・グループで使える学習室
一人でも、グループでも、授業でも!

3 雑誌のバックナンバーを自由に閲覧
大学の学習に欠かせない雑誌情報!

4 教員志望者向け資料室
総合教育研究センターの資料が図書館へ!
よりじっくりご利用いただけるようになりました。

5 学びのナビコーナー
勉強で困ったときは、ココに相談!

その他、従来の「開架閲覧室」「パソコンエリア」「震災関連資料コーナー」「新着雑誌コーナー」なども、より使いやすくなっています。

2F



「学びのスタッフ」活動中!

学類生・大学院生が、みなさんの勉強の悩み相談を受け付けています! お気軽にお立ち寄りください。

学びのスタッフについてもっと知りたい方は、P.5へ

1F

入口から近い場所であり、会話も可能で、いつも賑わっている学習スペースです。一人でもグループでも、気軽に学習できます。イベントが開催されることもあります。

また、奥には大学生協図書館店があり、書籍の他、コーヒーや軽食を購入できます。勉強に疲れたときなど、飲食エリアで一息ついてみてはいかがでしょうか?



カウンターで申込をすれば、展示も可能

3F



スタディールーム



セミナールーム

1~4名で利用できる学生専用の学習個室「スタディールーム」と、5名以上で予約できるプロジェクタ・大型スクリーン等完備の「セミナールーム」が新設されました。申込はカウンターまで！

ラーニング
コモンズ3

セミナー
ルーム

国際交流コーナー
(留学生用図書・多読)

スタディ
ールーム



会話もでき、ゆったりとしたソファ席での学習が可能です。ノートPCを持ち込めば(カウンターでも貸出可)、ディスプレイにつないで、画面を見ながらのグループ学習にも便利です！



近くに図書館の本や雑誌があるため、それらの資料を利用した学習に最適です。会話可能で、イスや机・ホワイトボードも自由に動かして使うことができます。一人でも、グループでも、自分に合ったスタイルで学習してみましょう！

小中高の教科書・指導書、教員採用試験の過去問等が揃っています。教員を目指すなら利用は必須。



教育研究
資料室

震災
関連資料
コーナー

書庫

参考図書
コーナー
(辞書・辞典)

学生用
新着雑誌
コーナー

文庫・新書

学内刊行物・
福島大学教員
著作物

シラバス
参考図書
コーナー

ラーニング
コモンズ2

パソコン
エリア
(PC37台)

AV
コーナー

事務室

カウンター

研究用
新着雑誌
コーナー

雑誌室1
(和雑誌・洋雑誌)

雑誌室2
(洋雑誌)

大部分の雑誌のバックナンバーが、使いやすい最新式の電動集密書架に收容されています。これまで書庫にあった、学習や研究に欠かせない学術雑誌が、ここで自由に利用できるようになりました。



*** 附属図書館リニューアルオープン記念イベント報告 ***

オープニングセレモニー

平成 27 年 7 月 16 日 (木)

平成 25 年度から始まった増築改修工事が完了し、平成 27 年 7 月にリニューアルオープンを迎えました。これを記念し、オープニングセレモニーを開催しました。会場となった図書館本館エントランスロビーには、榎本剛文部科学省研究振興局参事官をはじめ、学内外より総勢 79 名

の方がお集まりくださり、テープカットを行ったり、ご祝辞をいただいたりと、盛大な式典となりました。式典後には新しくなった図書館を見学いただき、皆様より好評の声いただきました。



セレモニーの様子



テープカット (左から、榎本参事官、中井学長、千葉館長)

中村文則氏トークショー&サイン会

平成 27 年 7 月 18 日 (土)

リニューアルオープンを記念したイベントとして、本学の卒業生であり芥川賞受賞作家の中村文則氏をお迎えし、新設したラーニングcommons 1 を会場に、トークショー&サイン会を開催しました。学内外から 180 名の参加者があり、開催前に発表されたばかりの芥川賞の受賞者の話題や、大学時代によく図書館を利用されていた

という本学での思い出話、自身の小説の書き方についてなど、様々なお話をいただきました。時折会場が沸く場面もあり、大変楽しいトークショーとなりました。

その後のサイン会では、中村氏のご厚意で写真撮影など一人一人に時間を取っていただき、参加者が大満足のイベントとなりました。



トークショーの様子



サイン会の様子

「学びのスタッフ」 活動開始！

～学習支援拠点センターに向けた萌芽～

総合教育研究センター 鈴木 学

附属図書館の増築改修工事を終えて、福島大学にも待望のラーニングcommonsが設置されました。昨今の高等教育における「教育から学習への転換」を進める動きに伴って、学習者中心の環境としてのラーニングcommonsにスポットライトが当てられています。ラーニングcommonsの形態は各種大学によって様々ですが、本学では附属図書館に併設する形で導入されました。先人たちの知が集約された“静的な空間”である図書館に、ラーニングcommonsという協同的な学びをベースとした“動的な空間”が組み合わさることで、教育と学習の深化・拡張への期待が全学的にも高まりを見せています。

「静と動」を両立させた学習空間として生まれ変わった附属図書館の発展可能性が大きいことは想像に難くありません。本学ではその可能性を探求する一方策として、「学生の力」を活かした学習支援活性化事業を展開しています。2016年度より総合教育研究センターとの連携体制の下、教員・職員・学生による「三者協働型」の学習支援事業を新たに立ち上げました。

本取組みは、ハード面でのラーニングcommonsの整備に伴い、ソフト面での学生の主体的学習を促進することを学習支援事業の中核に据え、教育・学習支援の新たなアクター（＝学びのスタッフ）として学生を育成・組織することで、物的環境だけでなく人的環境まで整備したラーニングcommonsを目指すものです。具体的には正課内外問わず、①学習相談対応、②学習イベント企画、③学習連携促進の3つの方向性で活動を進めています。

①学習相談対応

「ちゃんと勉強したい人を応援します」のキャッチフレーズの下、個に応じた学習支援として、学生の質問を個別に受付ける学習相談窓口を開設しています。本学では教員によるオフィスアワーも設定されていますが、直接教員に質問に行く学生はそれほど多くないのが実情です。特に授業に関する質問の場合、「こんな質問を先生にしても大丈夫だろうか」という不安を抱く学生もいるので、同じような悩みや不安を乗り越えて学んできた先輩学生が学習

支援者となることで、学生はより質問しやすい環境を得ることができると考えています。学びのスタッフによる学習相談は、学生が自分のペースで学習しながら困った時には気軽に相談することができる機会として位置付けられるでしょう。

②学習イベント企画

学習相談対応が静的な（待ちの）学習支援ならば、学習イベント企画は動的な（発信する）学習支援といえます。授業以外で学生の学習ニーズを満たすイベントを学びのスタッフが企画し、課外で新しい学習機会を提案します。コンテンツとしては時事問題から教養までを扱い、方法としてもワークショップやディスカッション等、多様なあり方を検討しています。2016年度前期には18歳選挙権に注目したワークショップを企画しました。先輩学生の視点で企画される学習イベントは、学生の興味と関心に寄り添いやすいといった点で価値があると考えています。

③学習連携促進

学習連携といっても方向性は様々であり、i) 教員との連携（授業）、ii) 学生との連携（自主ゼミ・サークル）、iii) 正課カリキュラムとの連携（自己学習プログラム）を模索しています。具体的には授業担当教員との連携の下で先輩学生による出前授業を実施したり、自主ゼミ活動に注力する学生にインタビューをしたり、学びのスタッフが自己学習プログラムを開発したりする活動を行っていますが、様々な分野と連携を促進しながら「学生の力」とラーニングcommonsの発展可能性を探る活動を積極的に進めています。

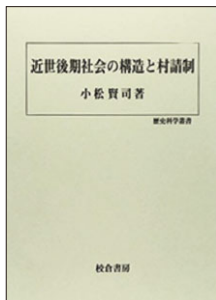


出前授業の様子（テストの種類とレポートの書き方を知ろう！）

以上のように、教員によるコーディネートと職員によるバックアップ、そして学生のパフォーマンスによって、学生が主役の福島大学らしい学習支援は着実に形になりつつあります。附属図書館が「学習支援の中核的センター」として今後発展していくためにも、三者協働で学習支援推進の旗を振り続けていきますので、引き続き本活動への応援をよろしくお願いいたします。

学内教員著作寄贈図書

ここに紹介する図書は、すべて新館2F「福島大学教員著作物コーナー」にあります。



近世後期社会の構造と村請制

小松賢司 著

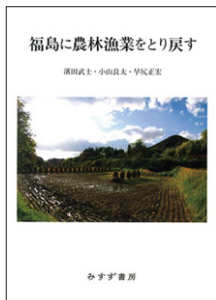
校倉書房, 2014.4
(歴史科学叢書)



本書は、日本近世史に関する私のこれまでの研究をまとめたものである。近世とは、一般的に江戸時代と呼ばれる約250年間のことであり、近世後期とは、18世紀中頃から、江戸幕府が崩壊する19世紀中頃までの約100年を

指す。この時代には、近代への転換を生みだした様々な社会の変動・変容が見られ、その評価をめぐっては、これまでに多くの研究が積み重ねられてきた。本書はそれら先行研究を整理し、現段階で求められる研究視角を確認したうえで、個別具体的な事例研究を展開し、近世後期社会に新たな評価を与えることを目指したものである。

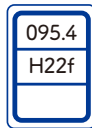
研究の現状や視角について興味関心のある方は、本書の序章をお読みいただきたい。本論の1～8章は史料分析に基づく実証研究であり、日本史を専門としない方には少々読みづらいただろう。しかし本書を通読すれば、社会の細部に起きた一見些末な事象から描き出される、リアリティーあふれる歴史像の面白さを実感できるはずである。(小松賢司)



福島に農林漁業をとり戻す

濱田武士, 小山良太,
早尻正宏 著

みすず書房 2015.3



東日本大震災にともなう福島原発事故から2016年で6年目に入る。被害の範囲も責任もあいまいなまま、原発災害の苦しみは続く。現在、福島の米や野菜から放射能はほとんど検出されず、海水の放射能含有量は事故前に戻ったが、風評被害は残る。本書は、農・林・漁業の経済学を専門とする研究者が、なりわいの再生という難問に取り組んだ。3人は北海道大学農学部・水産学部の先輩後輩であり、それぞれ東京海洋大、福島大学、山形大学で漁業、

農業、林業の研究を行ってきた。それが震災で一つの課題を共有することになった。山に大地に海に降り注いだ放射性物質は循環するため、農・林・漁業をつなぐ視点は欠かせない。現場にかかわりながら、歴史・実態・政策を分析、この間に蓄積された科学的知見に立って提言した。県産米全袋のセシウム検査。原発汚染水問題と漁業再開のゆくえ。避難者を呼び戻すきめ手となる森林除染。集落の維持と雇用創出。再び安全な食材の産地を掲げるための道筋。福島の各地でさまざまな「協同」の力がはたっている。ふるさとをあきらめない人、自然と共に生きてきた人、ここで復興するしかない人々がいる。福島に農林漁業をとり戻すとは、人と自然の営みを、地域と産業を再生することだ。長い闘いの先に、復興が見えてくる。それを支えるのは、同じ国土に生き、社会経済に原発を組みこんできた私たちみんなの問題である。(小山良太)

〈2016年度 日本協同組合学会学術受賞賞〉

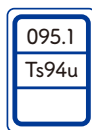


裏磐梯・猪苗代地域の環境学

Environmental study in
URABANDAI-INAWASHIRO area

塘 忠顕 編著

福島大学磐梯朝日
遷移プロジェクト
2016.3



青、瑠璃、赤など様々な色の沼からなる五色沼湖沼群、標高500m以上の高所にあり、透明度が高いため天鏡湖の別名をもつ猪苗代湖など、裏磐梯・猪苗代地域は素晴らしい景観と自然環境が楽しめる福島県内有数の観光地です。しかし、この景観と自然環境は自然や人間による影響で変

化しつつあり、それを良好に維持・保全するためには解決すべき様々な問題があります。本書はこれらの問題の原因解明と解決策提示を目指し、文部科学省の支援を受けて実施したプロジェクト研究の成果をまとめたものです。

プロジェクトのメンバーが、地域の住民や行政等と連携をはかりながら、地域の自然環境に関するデータを収集し、それらに基づき、地域の自然環境を維持・保全するための提言を示しました。また、猪苗代湖湖底堆積物から読み解いた猪苗代湖形成史、磐梯山周辺の今後100年間の気温上昇予測、裏磐梯地域の生物多様性の実態、毘沙門沼が青色を呈する原因物質に関する新事実など、理系の学生や自然に興味がある方に楽しんで頂ける内容も含まれます。(塘 忠顕)

*** 震災関連資料ご寄贈のお願い ***



附 属図書館では、2011年3月11日の東日本大震災以降、震災や福島第一原発の事故等に関わる資料を収集し、「震災関連資料コーナー」を設けて、学内及び地域のみなさまにご利用いただきました。

今回のリニューアルでは、今後の資料増加を考慮してコーナーの収容力を拡充しており、震災から5年が経過した今、初心に立ち返り、これまで以上に資料の

収集に努めたいと考えています。

震災に関わるさまざまな資料(単行本・報告書といった書籍類だけでなく、チラシ、避難所での掲示物、震災関連イベントの資料、復興に関する会議資料など)をお持ちでしたら、ぜひ当館にご寄贈くださいますよう、お願いいたします。

また、学内の成果物で電子データでの公開が可能なものは、福島大学学術機関リポジトリ(FUKURO)を通じて広く世界へ発信し、共有することができます。

震災の記録を後世に受け継ぐとともに、今後起こりうる災害への対応に活かすためにも、みなさまのご協力をお願いいたします。



震災関連資料コーナー

【問い合わせ先】

福島大学附属図書館 震災資料担当

〒960-1293 福島市金谷川1

電話 024-548-8087 (内線: 2612)

メール shinsai@lib.fukushima-u.ac.jp

*** 中学生が職場体験に来ました! ***

新 しくなった図書館に、3つの中学校から19名の中学生が職場体験に訪れました。

6月30日から9月2日までの間に、二本松第一中学校7名、福島大学附属中学校8名、平野中学校4名が、8日間にわたって図書館の業務を体験しました。

各中学校のみなさんとも図書館の仕事について興味を持ち、積極的に業務をこなしていました。普段目にするカウンター業務だけではなく、資料の購入やバーコードラベル貼付など裏で支える仕事や、本の移動作業など想像以上に体力が必要な仕事などを体験し、よい経験になったとの感想が多く聞かれました。

利用者の方々にも、カウンターなどで温かく接していただき、本当にありがとうございました。

図書館としても、地域の中学生とふれあい、大学や図書館のことを知ってもらうきっかけとなりました。今後も機会があれば継続していきたいと考えています。

雑誌移動作業
(二本松一中)



カウンターの内側から

経済学研究科1年 菊地 聖也

私は今年の4月からカウンター業務を担当しています。業務の内容は本の貸出や返却処理、依頼された書庫の本の取り出し、図書の配架、ID貼り、そして館内の利用者の人数把握などです。また2015年に図書館が増築され、スタディールームやセミナールーム、そしてラーニングcommonsなどいろいろなサービスを提供できるようになりました。

このように図書館はより快適で便利なものとなりました。しかし、利用者の中には戸惑う方も見受けられます。たとえばスタディールーム利用の仕方がわからない方や、カウンター横のゲートで通り方がわからなかったり、立ち止まってしまう方などがいます。そのような方々により快適に過ごしていただくために、私たちはどうすればよいのか悩むこともあります。

そのため、私は次のような工夫をしています。スタ



ディールームの使用方法がよくわかっていない利用者に対しては、利用する際に記入してもらう書類の書き方を丁寧に説明するといったことや、ゲートを通ることができない人には図書館の利用証をゲートにある一定の速度で通さなければいけないことを説明するなどです。

最近では書庫資料の配置が変わるなど図書館は日々変化しています。利用者のなかには変化にとまどってしまう方がいるかもしれません。そのため設備のみならず、サービスの点でも利用者にとって快適な図書館になるよう、私はこれからより一層業務にいそしんでいきたいです。

福島大学附属図書館報

書 燈

発行日/2016年(平成28年)10月

発行元/福島大学附属図書館
〒960-1293 福島県福島市金谷川1番地
tel.024-548-8087

<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>



福島大学附属図書館報『書燈』第50号 目次

- 図書館リニューアルオープンに寄せて 千葉 悦子 …………… 1
- リニューアルでココが変わった! 附属図書館 …………… 2
- 附属図書館リニューアルオープン記念イベント報告 附属図書館 …………… 4
- 学びのスタッフ活動開始
～学習支援拠点センターに向けた萌芽～ 鈴木 学 …………… 5
- 学内教員著作寄贈図書の紹介
『近世後期社会の構造と村請制』 小松 賢司 …………… 6
『福島に農林漁業をとり戻す』 小山 良太 …………… 6
『裏磐梯・猪苗代地域の環境学』 塘 忠顕 …………… 6
- 震災関連資料ご寄贈のお願い 附属図書館 …………… 7
- 中学生が職場体験にきました! 附属図書館 …………… 7
- カウンターの内側から 菊地 聖也 …………… 8

編集
後記

大規模な工事が完了したので、リニューアル特集を組みました。そして、1984年に創刊した本誌も今回で50号を迎えたのを機にデザインを一新しました。年1回の刊行でスタートし、途中から年2回となりましたが、今回から年1回秋頃の発行となります。これからもぜひご愛読ください。(T)